

開催内定!!

小特集

燃ゆる感動 カゴしま国体

2020



第75回国民体育大会

熱い鼓動 風は南から



昭和47年「太陽国体」開会式

「太陽国体」から48年の時を越え

鹿児島県で初めて国民体育大会（国体）が開催されたのは、昭和47年のこと。それから48年、およそ半世紀の時を越え、平成32年（2020年）に鹿児島県で再び国体が開催されます。同年には東京オリンピックも開催され、国民のスポーツへの関心が一層高まる中で迎えることとなる第75回国民体育大会「燃ゆる感動カゴしま国体」の開催に向けた取り組みなどを紹介します。

現在、会場地市町村の選定をはじめ、競技施設の改修、地元選手の育成など、国体開催に向けた準備が着々と進められています。国体開催まであと4年。同年の東京オリンピック開催を追い風に、県民総参加のもと、鹿児島らしさを生かした国体となるよう、今後もさまざまな取り組みを行っていきます。

平成27年7月22日、公益財団法人日本体育協会理事会において、平成32年に鹿児島県で国体が開催されることが内定しました。

◆「国民体育大会」とは

戦後の荒廃と混乱の中で、スポーツを通して国民に勇気と希望を与えると昭和21年に京都府を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催されて以来、各都道府県の持ち回りで毎年開催されている国内最大のスポーツの祭典。正式競技では、都道府県対抗で天皇杯（男女総合成績1位）と皇后杯（女子総合成績1位）を巡る熱戦が繰り広げられます。



◆「太陽国体」とは

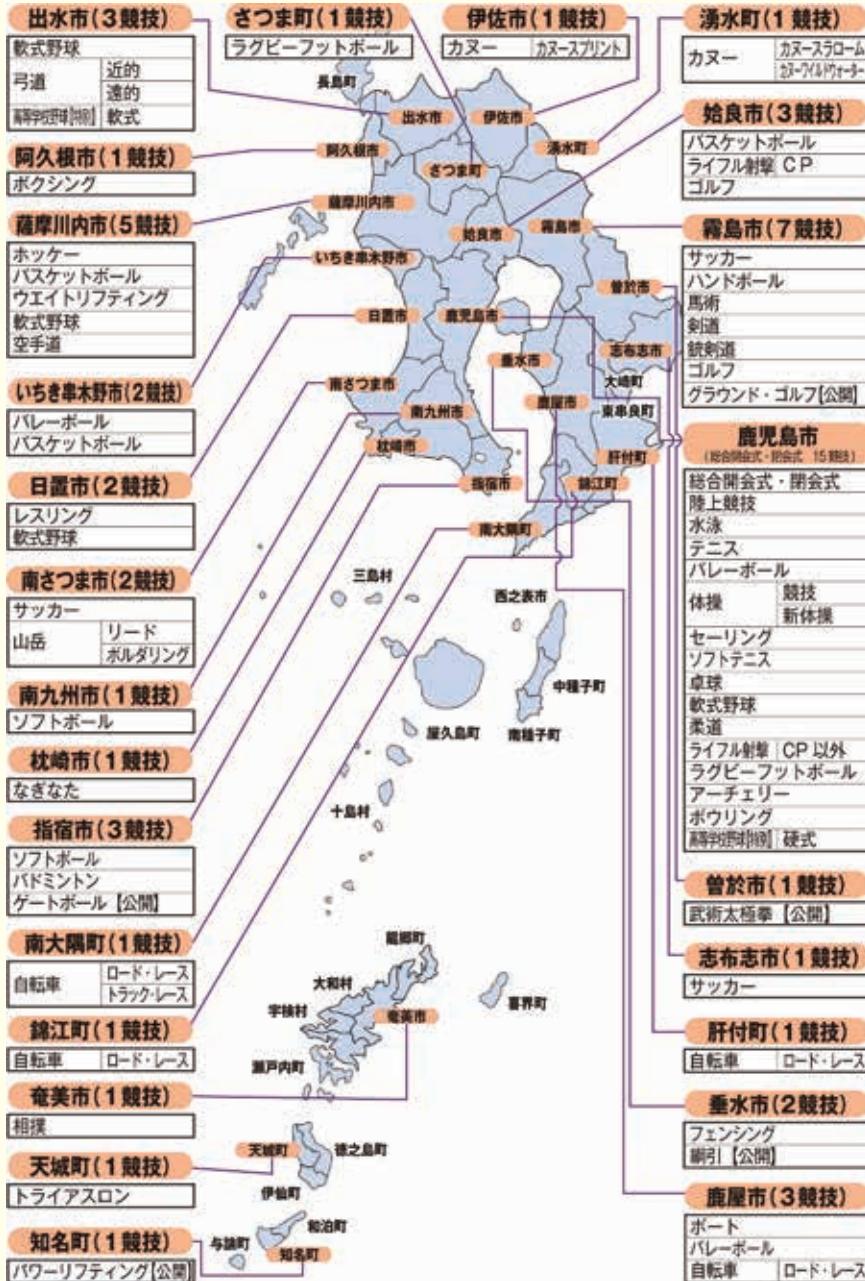
昭和47年に鹿児島県で初めて開催された第27回国民体育大会「太陽国体」では、「明るく たくましく うるわしく」のスローガンのもと、県内21市町で31競技が実施され、まさに県民総参加で大いに盛り上がり、鹿児島県は念願の天皇杯・皇后杯を獲得しました。



愛称・スローガン

実施競技と
会場地市町村

県内各地で正式競技37競技、特別競技1競技、公開競技5競技のほか、県民を対象とするデモンストレーションスポーツなどが実施されます。



第75回国民体育大会の愛称「燃ゆる感動がこころ 国体」とスローガン「熱い鼓動 風は南から」は、全国からそれぞれ約13000件にのぼる応募作品の中から選ばれました。愛称には、「世界有数の活火山である桜島や明治維新を成し遂げた偉人に象徴される熱く情熱的な鹿児島の地で、アスリート達の熱気あふれるパフォーマンスや県民の心のこもったおもてなし」が、熱く燃えるような感動を呼び起こす国体を目指す」という決意が、スローガンには、「熱戦を繰り広げるアスリー

ト達の熱い鼓動と会場に響きわたる歓声が、鹿児島から南の風に乗って全国に広がつてほしい」という思いが込められています。マスク「チックキヤラクター」には、かこしまP・Rキャラクターでおなじみの「ぐりぶー」ファミリーが就任。「燃ゆる感動がこしま国体」を盛り上げます。

鹿兒島國体



(左) 愛称の部: 新改 藤 茜さん [鹿児島市多山小4年]

(左) 変称の部・新改時葉と。【鹿児島市名古屋4丁】
かわいだなつき
(右) フローリングの部・川井田葉見さん【鹿児島市和田中1丁】

「燃ゆる感動が」しま国体では、「力みなぎる・かごしま」の多彩な魅力を全国に発信する国体 を基本目標に定め、次の5つの項目を柱としてさまざまな取り組みを行います。

鹿児島が目指す国体 (基本目標)

5

4

3

2

1

**東京オリンピックイヤー
にふさわしい国体**
鹿児島県選手の活躍・支援、
東京オリンピックとの連携など

図る国体 既存施設の有効活用、総合開会式・閉会式の創意工夫など 心のこもったおもてなしや交流の促進、広報活動の推進など

県立総合カレッジの取り組み
ボランティアの育成など

県民が夢と希望を持ち
心に残る国体

[問い合わせ先] 第75回国民体育大会鹿児島県準備委員会事務局(県庁国体準備課内) 099(286)2864